

塘研究室現地調査報告

私たちの研究室では、昨年度まで裏磐梯地域の河川や池沼において、網羅的な底生動物相調査を実施してきました。その結果、裏磐梯地域におけるおおよそのファウナは明らかにできたと考えています。そこで、私たちの研究室の今年度のプロジェクト研究所における研究課題の一つを表磐梯地域の池沼、湿地、湿原における底生動物相解明としました。昨年度、4年生だった林宏至朗君が猪苗代町の南ヶ丘牧場付近の池の底生動物相を明らかにし、表磐梯地域における底生動物相調査の先鞭を付けてくれました。ということで、今年度の第1回目の調査（参加者は塘のみ）を、林君の調査地だった南ヶ丘牧場付近の池とそこから南東方向に直線距離で1.6kmほど離れた猪苗代町戸ノ口（翁沢）の池で実施しました。

南ヶ丘牧場付近の池ではエゾイトトンボが羽化のピークを迎え、夥しい数の羽化直後の個体が池の周囲の林やササ原にいました。すでにトラフトンボの仲間、カラカネトンボは♂が縄張り行動を示し、成虫越冬したオツネイトンボはペアを形成していました。コオイムシ属の♂は背中に卵を背負い、こちらも夥しい数のヒメアメンボが羽化失敗して水中に浮かんだイトトンボに群がっていました。ゲンゴロウ類は昨年度確認した多くの種類を再確認することができましたが、ナガケシゲンゴロウは確認できませんでした。トビケラ類の幼虫も昨年多かったウンモントビケラ属、キリバネトビケラ属、コバントビケラ属を確認しました。ギンヤンマ属、ルリボシヤンマ属のヤゴもかなり大きくなっており、近いうちに羽化するものと思われました。

戸ノ口（翁沢）の池ではヒメシロカゲロウ属の一種の生息を確認することができました。表磐梯地域では南ヶ丘牧場付近の池に次ぐ第2の生息地の発見です。南ヶ丘牧場付近の池ではリターがあれば本種はどこでも見られるのに対して、こちらの池では分布がかなり局地的な印象でした。この池はバスが多く、泳ぐ姿を岸から見るができます。釣り人も何人もいました。南ヶ丘牧場付近の池にはいないオオエゾヨコエビ（と思われる在来ヨコエビ類）、プラナリアの分布を確認しました。こちらもエゾイトトンボの羽化が始まっていましたが、個体数はそれほど多くはありませんでした。トビケラ類は南ヶ丘牧場付近の池とほぼ同様でした。ゲンゴロウ類はヒメケシゲンゴロウ、シマゲンゴロウを確認しました。コオイムシ類、ヒメミズカマキリ、マルタニシもいましたが、個体数は多くないようです。

表磐梯地域にもキビタキが多く、昨日に続き、オーシンツクツクの声聞きながらの調査でした。



南ヶ丘牧場付近の池



戸ノ口（翁沢）の池



ゲンゴロウ♂（南ヶ丘牧場付近の池）



コオイムシ属♂（戸ノ口（翁沢）の池）